

皆さん、こんにちは。城北支部広報部です。第6号でお伝えしました診断士による演奏会が今回はメンバーを増加して開催されました。メンバーの皆さんにその模様をお聞きしました。

【“秋との戯れ” コンサート】

Q 前回のコンサートから新たな人の参加がありましたが、そのいきさつも含めて今回開催までの経緯を教えてください。

おかげさまで前回から3人メンバーが増えて、出来る曲が少しだけ広がりました。新メンバー参加の経緯について簡単に紹介します。

三澤みどり（ピアノ・バイオリン）

前回（春の戯れコンサート）都合がつかなかったため今回から参加となりました。本職はバイオリンなのですが、ピアノ伴奏者の確保が難航したため、今回は主にピアノ伴奏として参加してくださいました。仕事の合間を縫って10曲近い曲を弾きこなしていただき本当にメンバー全員助かりました。三澤先生がいらっしゃらなかったら今回のコンサートを開けないところでした。

平野修（バイオリン）

前回にお客様として来てくださっていましたが、今度は是非演奏者としての参加をお声掛けしたところ快諾していただきました。ピオラの佐藤卓先生は、他支部から移籍されたばかりとのことで7月に行われた青年部のイベントに参加していただきまして、その懇親会でたまたまピオラを弾くことを知り、平野先生からのひと押しもあり仲間になっていただきました。

選曲・演奏について

「赤とんぼ」は、「オーディエンスの方々にも、一緒に音楽を愉しんでいただきたい」という思いがありました。また、今年がちょうど作曲者・山田耕筰氏の没後50周年でもあるので選曲しました。

余興の2曲はモーツアルトの「鏡(mirror:英語、spiegel:独語)」音楽と呼ばれています。モーツアルトの作品かどうか疑わしさは残りますが、モーツアルトらしい可愛いくて綺麗な曲です。1つの譜面を頭から弾く第1バイオリンと反対側から譜面をみてお尻から弾く第2バイオリンの二重奏として作曲されたみたいです。新人男性2人で遊びのつもりで弾いたところ、あまりに楽しい曲なので器楽奏者全員で弾いてしまいました。

Q 演奏会を終えて皆様の感想と今後の抱負等をお願いします。

（松本恭子 オーボエ）感想としては、本番で練習の成果を100%出し切るのは難しく、完成度はまだまだですが、前回よりまとまりが出てきたと思います。今後の抱負としては、前回・今回とも自分が吹きたいチャレンジャーな曲を演奏していたので、次回はお客さまの立場に立ってどこかで聞いたことのある曲をもう少し完成度をあげて演奏したいと思います。

（石川知穂 バイオリン）前回、久々に楽器を手にしてから、「本腰を入れて、もう一度弾いてみたい」という気持ちが日増しに大きくなりました。今回、三澤先生がピアノ伴奏を引き受けてくださることになり、時間的にも厳しかったのですが、「弾きたい」と思った楽曲にチャレンジできたことに感謝しています。今後は、

小品をはじめ、さまざまなジャンルの楽曲にも触れてみたいと思います。

(諸葉子 ソプラノ) 大好きなモーツァルトの曲を願ってもいない形のアンサンブルで演奏でき、それをお客様に届けられたことをとても嬉しく思っています。仲間がいるからこそだと感謝です。ご来場くださった皆様が「来てよかった」と思えるような、何か心地よい記憶に残るものとなれば幸いです。技術の向上と内容の充実を重ねていこうと思います。

(佐藤卓 ビオラ) 城北支部に移籍したときには、まさか中小企業診断士の皆様とアンサンブルができるとは思っていませんでした。音楽だけでなく、何でも相談できる若い仲間ができたことは大きな収穫です。青年部松本部長に感謝しております。アンサンブルの楽しさを更に追求し、ワクワクするような演奏を皆様に届けることができますよう練習したいと思います。

(三澤みどり ピアノ) 久しぶりにピアノと向き合い、想像以上に指が動かずあせりまくりの数か月でした。というわけで、まずは演奏者と調和できることを念頭に伴奏しようと臨み、何とか滞りなく伴奏することが出来てほっとしています。次回は、バイオリンでアンサンブルに参加予定です。皆さまに楽しんでいただけるよう時間を見つけて練習に励みたいと思っています。

(鈴木香織 ソプラノ) 前回にいらしてくださった方のご意見を取り入れて、最後の「皆さんで『赤とんぼ』を歌いましょう」という取り組みは好評でした。前回よりもグループの人数が増えたので、自分自身の特性とグループの編成に合わせながらも、お客様が楽しめる曲を探すことに課題を感じるようになりました。自分の楽しみを追及するだけでなく、足を運んで来てくださったお客様がより満足できるものを求めていきたいと思っています。

(平野修 バイオリン) 今回初めて参加させていただきました。たまたま、今年バイオリンの練習を二十数年ぶりに再開し、先生についてレッスンを受けていたところ、お誘いを受け勇気をだして出演することになりました。アンサンブルは本当に久しぶりでしたが、練習や本番の楽しさを思い出しました。まだまだ課題は多いのですが、レパートリーを増やしながらか基礎的なことも勉強していきたいと思っています。次回以降、さらに仲間を増やして音楽の輪を拡げ、皆様にお届けできればと思います。



【大手信金“朝日信用金庫”との「包括的連携協定」締結】城北支部長 朝倉久男

城北支部では、都内大手信金で城北エリアを基盤とする朝日信用金庫との間で先般9月に正式に「包括的連携協定」を締結しました。朝日信金様は、東京・千葉・埼玉に現在65店舗を有し、法人貸出先数は約26,000社をもつ有数の金融機関です。同金庫の主たる取引先である中小零細企業においては、対外経済環境を巡る不透明感はなお強く、取引先の中にはさまざまな課題を抱えているところがある由です。そうした時代だからこそ、地域活性化のために、コンサルティング機能を十分に発揮し、取引先の課題に応じた最適な解決策を提案し、実行してゆく体制の強化、その一環として外部コンサル機関との連携の必要を認識しているとのことです。

そうした思いをもった朝日信金様から、私ども城北支部が相応しい先として、連携・協力する機会を得られたことは大変喜ばしい限りです。東京協会でも幾つかの金融機関と提携をしておりますが、支部が個別に提携を行った初めてのケースであります。

朝日信金様とは、既に補助金申請の個別相談会への協力や、朝日ビジネスプラットフォーム構成機関として各種事業に参画をするなど個別の取組みを行っていますが、今回の連携協定を機に、同信金様とは協力関係をより一層深めて、新たな事業機会を作り上げてゆきたいと思っております。

また、城北支部としては、既に連携を行っている台東区に加え、関係行政とも緊密な関係構築を図ることで地域経済の更なる発展に貢献できる体制を整えてゆきたいと考えます。



(調印式)

朝日信金（左側3人：真ん中より）

小林会長兼理事長、橋本副理事長、坂田理事（業務部長）

東京協会（右側3人：真ん中より）

小黑会長、松枝副会長、朝倉城北支部長

城北プロコン塾より ～「塾生のひとり言」～菅 巧也先生～



はじめまして、城北プロコン塾3期生の菅と申します。私は今年登録のため、まず簡単に自己紹介をさせていただきます。先の通り、今年、診断士登録を終え、城北支部、及びプロコン塾に入会、入塾させていただきました。今は企業内診断士として活動しております。勤務先は製造業で、業務は製造現場で日程、進捗管理や改善活動などの現場管理の仕事をしています。実家は両親のみの町工場であり、小学生の頃は夏休みの度に工場へ入り、旋盤作業など、仕事の手伝いをしていました。よって、ものづくりに関しては、比較的長く関わっております。

次に、ひとりごととして工場の手伝いをしていた時の話しをしたいと思えます。夏休みの工場の手伝いは、ちょっとしたお小遣い稼ぎでした。金額については出来高制か時給制を選ぶことができ、当然、頑張れば頑張

るだけ金額の増える出来高制を選んでいました。最初の1時間は時給以上の出来高を達成。しかし時間を追うごとに出来高が落ちていって・・・最終的には時給計算より金額が低くなっていく。そうしたところ「どうやったら、もっと数が出来るか考えろ」と言われ、いろいろ考えながら、そして教えてもらい、最終的には時給とほぼ同額程度にできるようになりました。

今でこそ本業で改善と言われていますが、改めて構えることではなく、昔のように良くするために考えていく、この考え方が大切だと思いました。

ちなみに、その後どんなに頑張っても時給以上は出来高をあげることはできませんでした。「数はどんなに頑張ってもこれが限界、こうやって単価と時給は決まっている」と言われ、お小遣い稼ぎを通じ最終的に単価と金額の仕組みを理解する、という体験でした。

【本誌に関する皆さまのご意見、ご要望をお待ちしております】

①皆さまがお持ちの“ネタ”を提供してください

- ・研究会・区会の活動を紹介したい、または、ご自身のセミナーを紹介したい。⇒広報部員が潜入します
- ・ご自身の特技を紹介したい。支部内の方と交流したい。⇒「今月の城北人」のコーナーで紹介します
- ・診断士としてのノウハウを紹介したいなど ⇒特集記事化します。

②皆さまが知りたいことを教えてください

- ・企業内診断士の活動状況が知りたい。
 - ・独立するには、どうしたらいいかを知りたい。
- ⇒各種 特集を組んで記事を作成します。

③読者としての（批判も含め）感想をお聞かせください

- ・批判的な内容もお願いします。今後の改善に活用させていただきます。

④本誌編集スタッフ募集中

- ・「隙間時間にちょっと」「アイデアを出すだけ」でも構いません。
- 問い合わせ先 城北支部広報部：johoku.kouhou@gmail.comまで よろしくお願い致します。

JOHOKU SHINDAN 誌

～第11号 「春の戯れ」コンサート～

2015年10月30日発行

発行者：城北支部長 朝倉久男

編集者：城北支部 広報部